

# 和歌山「全女」にむけ、 全国の仲間と全女活を



山崎中央女性運動部長から協力を要請した（左：仁坂知事、右：尾花和歌山市長）

部落解放第63回全国女性集会が5月12日、13日の2日間、和歌山市内でひらかれるにあたり、昨年12月18日に山崎鈴子・中央女性運動部長をはじめ、山本昌代・女性対策部長、藤本哲史・執行委員長、宮本修・作書記長が、仁坂吉伸・和歌山県知事と尾花正啓・和歌山市長に協力要請をおこなつた。

## 全女に向け 県と市に協力要請

# 和歌山市調整委員会

## ひらかれる

第三回目の和歌山市障害者差別解消調整委員会が10月30日、和歌山市保健所でひらかれ、和歌山市ブロックから2人が参加した。

会議では、新規事業の報告と障害者支援課がおこなった相談事例について議論された。

相談事例の検討では、委員からさまざまな意見がだされるなか、和歌山市ブロック選出委員から「相談事例から、どこに差別があるのか議論を」と意見がだ

された。ひとつひとつのこと例のどこに差別があるのか、という議論では、こういった相談が和歌山市に寄せられる背景を考えると、相談者ら双方のどちらかに差別があるのではなく、そいつた社会に差別があることとをしつかりと受け止めようとした。和歌山市の施策に大きく反映してほしいとの意見もあり、有意義な会議となつた。

東京地方裁判所で12月25日、「鳥取ループ（示現舎）」にたいする第7回公判かひらかれた。公判では、原告側より「陳述書」が提出されると同時に、陳述書に記されている個人情報においては、被告側がネット上に公開しないよう警告を

## 被告側の主張、暗礁に乗りあげたか

した。また、被告が自身のものではないと主張する「ミラーサイト」は、原告のものと思われ、ネット上に拡散されることが予想されることから注意する必要があると指摘した。

落問題を温存してきた」と主張し、原告と被告の主張がかみ合わない状態となつた。今後の裁判闘争としては、証人喚問の準備と陳述書の整理・作成を2月末までに終え、3月12日の第8回公判にのぞむ。

This map shows the central area of Wakanayama City, highlighting several key locations:

- ① 城北橋北詰 (Nishinomaru Bridge North End)
- ② 城北橋南詰 (Nishinomaru Bridge South End)
- ③ 八番丁 (Yahatan-chō)
- ④ 西二丁目 (Nishi 2-chōme)
- ⑤ 和歌山市役所 (Wakanayama City Hall)
- ⑥ わかやま歴史館 (Wakanayama History Museum)
- ⑦ ダイワロイネット ホテル和歌山 (Daiwa Roynet Hotel Wakanayama)
- ⑧ 和歌山中央局 (Wakanayama Central Bureau)
- ⑨ 和歌山地方裁判所 (Wakanayama District Court)
- ⑩ スマイルホテル和歌山 (Smile Hotel Wakanayama)
- ⑪ 和歌山城 (Wakanayama Castle)
- ⑫ 二番丁 (Ninban-chō)
- ⑬ 和歌山公園動物園 (Wakanayama Park Zoo)
- ⑭ 新保町堺詰 (Shinbashi-chō Sakaiguchi)
- ⑮ 米屋町 (Koshiyachō)
- ⑯ 畠河原本詰 (Kawagohara-honiguchi)
- ⑰ 案内通り (Inquiry Street)
- ⑱ 和歌山病院 (Wakanayama Hospital)
- ⑲ ジャン・キャナル (Jan Kanal)

## ◆全女活日程◆

- 2月4日（日）

13:00 開会

  - ・第63回全国女性集会について
  - ・旅行社より宿泊等の説明

14:30 休憩

14:40 各都府県連報告

16:40 「男女共同参画」審議会委員の報告

17:40 終了

○2月5日（月）

9:00 学習会「和歌山の部落解放運動と『部落差別解消推進法』の成立にかかわって…

10:30 質疑・応答

11:00 まとめ・閉会

○宿泊・会場 ダイワロイネットホテル和歌山  
和歌山市七番丁 26-1 TEL 0733-425-0055

北山誠一元県連書記二  
の連載3回目になる。

る。その年、父・良一が逝去している。

# 北山誠一を偲んで

3

この時期の湯浅・支は、勤務評定反対闘争に闘い、翌年には「皇太子の結婚祝賀」に沸くことで、松本治一郎の精神を継承し「特権階級の存天皇制」を批判する明をだしている。

さてその後、北山は常の子ども会や支部で活動を見て周囲に押され、26歳という若さで

北山が中心になつて「同  
対審答完全実施国民運動・湯浅町実行委員会」を結成し、県内網の目行動をおこなつた。

しかし、この頃に県内の部落解放運動は、特定政党の組織介入によつて歪められ、混迷の時期に突入していくのであつ